

洞爺湖ビジターセンター 2015年度 自然ふれあい通信

洞爺湖ビジターセンター・火山科学館では毎月1回、洞爺湖周辺の自然と親しむ「自然ふれあい行事」を開催しています。その様子を少しご紹介します。

10月10日(土) 四十三山でもみじ狩り&お茶会



洞爺湖畔の木々の葉が色づき始めました。洞爺湖ビジターセンターでもペレットストーブが稼働してよいよ冬が近づいてきた感じがします。そんな洞爺湖の秋を感じようと、10月の自然ふれあい行事「四十三山でもみじ狩り&お茶会」を行いました。

今回の行事は1910年の有珠山噴火で誕生した四十三山を歩き、約100年前に噴火した火口を見に行きます。また開催日間近の強風で葉が結構落ちてしまいましたが、紅葉や黄葉、実といった秋の自然も観察します。



四十三山の入り口付近です。噴火してから約100年のこの場所は洞爺湖温泉街のすぐ横にあります。



四十三山の森の中。ツタウルシの葉は赤く色づき、ドロノキやハリギリは落葉していました。

四十三山は1910年の有珠山噴火で地面が約170m持ち上がって誕生した山です。火山性の地震を観測し、それを元に事前避難が行われたという、おそらく世界で初めての事例がありました。この時の噴火で温泉が湧き出ているのを発見しました。噴火から105年経った現在では植生が回復してきており、陽樹であるドロノキやカツラは大きく成長しています。また、イタヤカエデやヤマモミジなどの紅葉したらキレイな木々の稚樹が育ってきており、噴火の被害に遭わなければ将来は紅葉がもっと美しい山になるものと思われます。

四十三山遊歩道では、ツルウメモドキ、ツリバナ、カンボク、ノイバラ、ムラサキシキブ、コクワといったカラフルな秋の果実もたくさん観察できました。この果実たちは鳥に食べられ、種子を散布してもらるように色づいています。

四十三山の森は洞爺湖温泉街のすぐそばにあります。森の中を少し歩くだけで季節の自然にたくさん出会えますので、みなさんも是非散策されてみてはいかがでしょうか。四十三山の散策を終えた後は、四十三山からも源泉を引いている洞爺湖温泉に浸かって火山の恵みを肌で感じるのがオススメです。



四十三山山頂の展望台でお茶も飲んだり、お菓子を食べていたりして休憩したあと、記念写真を撮影しました。

